

こと、はたとせあまりなり、こしのくににて病にかゝりてせんすべなく、つひにみやこにかへること、はなりぬ、

〔甲子夜話 三十〕予浦清少年ヨリ東武往還ノ道中、多ノ人ノ旅行ニモ遇シガ、ソノ行装小々殊ナル

コトハ有レド、マヅハ似タルモノナリ、備中ニテ薩州ノ息女、江都ニ上ルニ遇タリ、調度ノ長櫃幾

箇モ持行ウチ、飾著タルアリ、其サマ竹ヲ立テ、上ニ又横ニ結ビ、糸ヲ張り、少キ鼓又ク、リ猿ナド

ヲ下ゲ、竹ノ末三處ニハ、紅白ノ紙ヲ截カケニシテ、長ク垂レタルコト、神幣ノ如シ、或ハ紅ノ吹貫

小旗ナド付タルモ有リ、イト華ヤカナルコトニテ、女子ノ旅装ト見ユル者ナリキ、東行筆記

〔伊呂波字類抄 利壘字〕旅宿 旅館

〔書言字考 節用集 八言辭〕客宿 旅葉 旅間寐

〔萬葉集 雜一歌〕輕皇子宿于安騎野時、柿本朝臣人麿作歌、

八隅知之、吾大王、高照、日之皇子、神長柄、神佐備世須登、太敷爲、京乎置而隱口乃、泊瀨山者、眞木立荒

山道乎、石根、禁樹押、靡坂鳥乃、朝越座而、玉限夕去來者、三雪落、阿騎乃、大野爾、旗須爲、寸、四能乎、押靡

草枕、多日夜取世須、古昔念而、

短歌

阿騎乃爾宿旅人、打塵、寐毛宿、良自八方、古部念爾、○下三 首略

〔今昔物語 二十八〕近江國篠原入墓穴男語第四十四

今昔、美濃ノ國ノ方ヘ行ケル下衆男ノ、近江ノ國ノ篠原ト云フ所ヲ通ケル程ニ、空暗ク雨降ケレ

バ、立宿リヌベキ所ヤ有ルト見廻シケルニ、人氣遠キ野中ナレバ、可立寄キ所无カリケルニ、墓穴

ノ有ケルヲ見付テ、其レニ這入テ、暫ク有ケル程ニ、日モ暮テ暗ク成ニケリ、雨ハ不止ニ降ケレバ、

今夜計ハ此墓穴ニテ夜ヲ明サント思テ、奥様ヲ見ルニ廣カリケレバ、糸吉ク打息テ寄居タルニ、